

# 教職課程における ビデオ教材の効果的利用法

町 田 健 一

## I. ビデオ教材の利用法

教師教育のためのビデオ教材の利用法は、大きく分けて2通り考えられる。まず第1に、何といっても教育実習の事前指導において、教育実習とはいかなるものか「百聞は一見に如かず」で、実習生の2週間を追うドキュメンタリービデオや、教科別のベテラン教師の授業例・実習生の授業例、また、メディアの使い方などの各種指導技術の解説など、教師教育のためのビデオライブラリーは大いに役立っている。ただし、放送教育開発センター作成のビデオライブラリーは、教科によってはないものもあり、国際基督教大学教職課程では系列高等学校のベテラン教員の授業や、本学実習生の授業の撮影により、独自のビデオ教材の作成に着手している。特に実習生の研究授業の授業記録には、「指導した生徒の特徴、授業実習で心がけた点」「日毎の実習日誌に見られる、授業実習に関する実習生の反省と指導教諭の指導の記録」「指導案」「実習生・生徒間の主な対話のプロトコール（板書を含む授業分析）」「実習生の総括のレポートよりの実習後の反省と評価」等を付けてある解説書が特徴であり、後輩の実習生には「とても参考になる」と喜ばれている。ただし現在は、高等学校数学科のビデオ教材のみ完成しており、高等学校英語科と中学校社会科の授業のビデオ教材は作成中である。

第2の利用方法は、1994年度より、私学における教育実践の研究として独特な教育をしている学校を取材し、建学の精神・教育思想とその実践例の紹介に、またいくつかの授業をビデオで記録して（たとえば、第1回目の授業と研究授業を比較撮影し、それぞれの授業の前後の「指導教員の指導の記録」とあわせて）教授法の研究としての授業分析にと、教育研究用にビデオ教材を作成し、用いている。これらは、特に近い将来大学や大学院の授業における本格的な教材となるように、毎年少しずつ撮影をしているものである。これと並行して、教育実習の目的を教科中心の狭義のものでなく、全人的な教育のあり方を考えさせるものとして捉え、実習体験の広がり・深まりの形成のため、「実習内容の項目分類表」と「広がり・深まりの分析評価表」を作成、実習日誌の改善と共に実施して効果をあげており、今後の授業分析において、ビデオ教材を互いに補いあうものとして期待している。

本報告書では、一人の学生に関するビデオによる授業記録について、大学の教職課程においてどのような利用法が考えられるか、そのことに限ってまとめることにする。

## II. ビデオ教材による授業分析

大学における事前指導において、または各教科の教授法のクラスにおいて、実習生の授業の記録ビデオ鑑賞前に下記の課題を与え、鑑賞中にそれらの課題について気づいたことを何でも書き込ませる。鑑賞後にそれを元にして、その授業はどこが良かったのか、どのような努力・工夫がされていたのかを分析する。現場の指導教員も含め一般にすぐに問題点を捜しがちだが、

良い点をきちんと評価できる心・目が大切であるからである。次にどのようにしたらさらにより良い授業になるかを、自分たちの意見を発表しあい、事前指導や教授法のクラスの総意としてまとめるのである。

#### 〈課 題〉

今回の実習生の授業を自分の実習体験に活かすために、また、より良い授業分析の仕方（観点）を考えるために、以下のことからについて意見を書いて下さい。特に、第1回目の授業から研究授業までの成長の過程に注意してまとめること。

1. この実習生の授業の優れている点：どこが良かったのか、どのような努力・工夫がされていたか

##### 第1回目の授業

##### 研究授業

2. この実習生の授業の改善点：どのようにしたら、さらにより良い授業になるか

##### 第1回目の授業

##### 研究授業

3. 特にどのような観点から、または方法で授業分析をしたら良いか提案して下さい。  
(この設問は「教授法研究」の授業などでとりあげる。事前指導の授業では時間的にも無理であろう)

大学の教員を中心としたある研究会で、今回放送教育開発センターが教師教育のビデオ教材作成のために撮影をした、国際基督教大学のある教育実習生の第1回目の授業と研究授業のビデオ記録を紹介し、上記の課題を実際にやってもらった。10数人の回答を件数としては数えず、項目として整理し、その結果をまとめると下記のようなになった。これらは今後の教師教育のビデオ教材作りに役立つと思われる。大学の授業においては、先にも述べたようにそれぞれの学生が気がついたその授業の優れた点や改善点を下記のように出し合って議論すると共に、成長の過程のポイントを考え、自分の実習のための実践的な研究とするのである。特に先輩たちの実習体験は、より身近な生きた教材となるからである。

#### 〈研究会のまとめ〉

1. この実習生の授業の優れている点「他の実習生に勧めたい点」

## 第1回目の授業

- (1)事前の準備としての教材研究を非常に良く行っていた（適切な方法・量で提示できたか否かは反省点あり）。
- (2)導入部分を含めて、生徒が興味を持てるように考え、教材提示の仕方について工夫・努力が見られた。：学習資料の用意、視覚・聴覚メディアの活用
  - ・事前に生徒に自分のイメージで世界地図を書かせておいて、今回学ぼうとしている地域が生徒の意識から欠落していることを指摘（導入部分の工夫）
  - ・イスラム教の祈りをテープレコーダーで聞かせたり、写真のパネルを用意
  - ・プリント及び講義で教科書を補足する資料の提示（イスラム教の生活など）
- (3)表情・話し方が明るく、言葉もはっきりしていて、教える意欲が強く出ている。
- (4)名前を言って生徒を指名している（ランダムな指名の仕方としては反省点あり）。
- (5)生徒同士話し合う場を設けている（相談のさせ方としては反省点あり）。
- (6)単なる知識の暗記ではなく国際理解教育（隣人をより正しく理解する）という観点で一貫していた。

改善点かなりあるにせよ、事前の教材研究を始め授業全体として、実習生として一番大切なことである、「誠実な取り組み」・「意欲」が見られたという点では高く評価できるとの意見が多かった。

## 研究授業

- (1)指導教諭の指導に良く耳を傾け、またすぐその指導を次の授業に活かすなど、教材研究が引続き良くできている。（指導教諭談）
- (2)いろいろなメディアを駆使して、生徒の興味を引き付け、学習が深まるように努力をしている。
  - ・新聞記事なども取り入れたプリントによる資料作成（国歌の歌詞の活用により、国情の理解に努めるなどしていた）
  - ・能率良く授業をまとめるノート替わりのプリント作成
  - ・写真のパネルの用意
  - ・テープレコーダーを用いて国歌を聞かせ、その意味を解説
  - ・世界地図の掛図（用い方には反省点あり）の用意
  - ・生徒用地図帳と資料集の使用
- (3)導入時に、生徒が気づいている差別の具体例を出させ、また、前の授業で取り入れたロールプレイングの時のことを思い出させながら、日本人の中にもある、特に自分達の中にもあった人種差別の問題を指摘しながら、その時間の目標を自分たちの身近な問題としてはっきり提示できた。さらに展開時において国境線の問題で、ケーキの分け方の問題に取り組ませるなどしたが、同様の効果があった。
- (4)引続き明るく積極的な態度で生徒と接し、発問の後、間合いを取り、生徒の発言に良く取り上げて生徒と対話のある落ち着いた授業展開ができている：生徒の発現をうまく誘導す

る発問の仕方（後半やや一方的になってしまった展開に反省点あり。ただし、生徒に聞くべき所は聞き、自分が話すべき時は話すめりはりがあったとの捉え方もある。）

- (5)クラス全員とやり取りをしようという姿勢が見られ、自発的な発言をさせ、きちんと名前を呼んで行う指名の仕方が良い。
- (6)上記のことがらの他にも、机を移動してのグループの話し合いを取入れ、一人一人が参加しやすい場（給食班）を作って、活動的で変化のある授業を心がけている。
- (7)グループ指導時、適切な机間巡視も心がけている。
- (8)第1回目の授業ではかなり時間をオーバーし、時間終了後に慌ててまとめをして終わったが、今回は地理の学習の意義も含めたまとめをして時間通りに終了した。

ベテランの目から批評すれば、細かい点で改善点はあるが、現職の教員でも毎日これだけの授業をすることのできない人が多いのではないかととの評価もあり、2週間の努力の甲斐あって、かなりの向上が見られたものとする。

## 2. この実習生の授業の改善点（他の実習生に注意したい点）

### 第1回目の授業

上記のように、「良かった点」についてもより改善の余地があることが指摘されているが、以下の点も課題として考慮されるとさらに良い授業ができあがると考えられる。

- (1)生徒の自作の地図を用い、良く工夫された導入であったにもかかわらず、その時間の目的・流れをはっきり示せず、目的の提示という点で課題が残る。
- (2)ノート替わりのプリントを用意し、授業の能率をあげようとしたが、プリントの（ ）に順を追って答えを入れさせるのに追われたという印象が残った。（ ）を減らす必要もある。（プリントの利用の工夫）
- (3)板書が雑然としていて、計画性がない。
- (4)教科書の使い方（いつ、どの様に）、ノートのとりかたの工夫・指導のあり方を考える必要がある。
- (5)教師主導の説明調の授業になってしまった。
- (6)発問に対して生徒が考える間合いを取らず、自分ですぐに答えてしまったりしており、生徒の思考に配慮し、発展的で目的のはっきりした発問を工夫する必要がある。生徒の予備知識のチェックも必要である。
- (7)発問に対して生徒たちに考える時間を与えず、座席表でランダムにいきなり指名するなどしており、考慮すべき生徒の情報を知っておく必要と共に、指名の仕方に課題がある。
- (8)言葉遣いが雑で(学生言葉)、表現が通俗的な点が気になった。また、教科書での読み方などにも注意する必要がある。

(例)「イイジャン」「プー太郎」など

(例) 避けるべき言葉：「日本は一夫一婦制だが、…特殊な人もいる」

「代々木公園で可愛い子がいたらつきあってみようかと思う」等

(例) キリスト教では「礼拝」を「れいはい」と読むことが多いが、教科書では「らいはい」となっている。

(9)多面的・多角的な扱いの必要など、内容面での構成に課題がある。

(10)時間配分に問題があり、時間をオーバーした上の慌てたまとめであった。

### 研究授業

(1)生徒の発言・活動を大事にする努力が見られるなど、全体的に向上したが、実習生の授業のスタイルは一貫しており、この幅をどう広げていくかが課題である。(教師主導・知識中心の説明調)

(2)板書は、本人は黒板を半分に分けて、プリントの回答部分の記述と、講義の合間に単語をメモ的に記述する部分とに分けていたが、不要なものは消し、より計画的に、丁寧に板書する必要がある。また板書中、黒板に向きっぱなし等、体の向きに注意する必要もある。

(3)発問は、生徒の既有知識・経験を引き出したたり、理由を問うような掘り下げに乏しく、より発展的な発問の工夫が必要である。

(4)掛図は、世界地図ではなく、アフリカ大陸の地図の方が良かった。

(5)アパルトヘイトと日本との関わりなど、内容の展開がやや平板で一方向的な面があり、より内容面での教材研究の必要がある。

(6)まとめでは、地理の学習の意義について語っていて良かったが、中学1年生の生徒に良く分かったのか、その時間のまとめがやや弱くなっていなかったのか、再考の余地がある。

### 3. 特にどのような観点から、または方法で授業分析をしたら良いか

(1)指導教諭の指導方針を明確にし、指導過程(指導教諭と実習生とのやりとり)や指導案、ビデオの記録から、実習生の成長の過程を、実習生の努力・工夫のポイントと共に浮き彫りにしたい。

- ・指導形態としての、一斉指導のグループ指導について：1回目では、「なぜ?」「相談してもいいよ」と言いながらも相談のためのグループ分けもせず、発問も内容を深め合う種類のものでなかったが、研究授業では、話しやすいグループを用い、具体的なケーキの分け方から、国境線の引き方を考えさせるもので、机間巡視と共に工夫が見られる。

- ・指導技術としての指名及び発問の仕方について：両方のより良い組合せ、それぞれの工夫など。1回目では、発問の後考える時間を与えずに、ランダムに座席表から指名をしていたが、研究授業では、全体やグループに問い、考える時間を与えた上で自発的に答えさせている。

- ・その他、指導計画・教材作成(プリントの工夫)など

(2)指導案作成までの過程、授業の力点のおき方に注目して分析したい。

(3)地理としての教材研究のあり方としてまとめたい：内容自体の研究、人種差別に対する人間観・平等意識の形成など価値観形成、生徒の理解力の深まりの分析、学習課題にふさわしい学習環境の整備など

- (4)発問の分析をして改善点を考えたい：教師と生徒の対話、生徒同士の対話、生徒の思考力・判断力・表現力・行動力などの育成、生徒一人一人の持つ学習課題・個人差への対応など
- (5)板書の分析をして改善点を考えたい：板書内容・量、まとめ方など
- (6)視聴覚教材などの指示・利用の仕方を考えたい。
- (7)教師の活動時間・内容及び生徒の活動時間・内容の分析をしたい：特に生徒の主体的な活動時間・内容のあり方について
- (8)大学における実習指導のあり方を考えたい：実習体験の広がり深まりを作るために、実習生のためのチェックポイント（たとえば、実習項目分類表とその評価分析表）の作成の必要

各授業を様々な観点から分析し（カテゴリーを設定し）、それをどう統合していくか（授業のねらいを明確にし、カテゴリー毎に分析されたもののまとまりとして、授業の山場を見せる）が、課題である。

### III. ビデオ教材を補う解説書の作成

事前指導や各教科の教授法の授業で、学生に見せるための授業の記録のビデオ教材は、あまり優れた実習生の授業であっても、準備のひどい授業であっても望ましくない。望ましいものは、上記「1. すぐれていた点」、「2. 改善点」のまとめをした時に、教育思想も含めた指導計画、自発性や個性等の指導原理、一斉指導やグループ指導などの指導形態、講義法・練習法・問答法などの教育方法、板書・指名・発問・机間巡視・ノート指導等の指導技術、教育者として必要とされる生徒一人一人を大切にする愛情・教師としての使命観・人格形成・研究態度、それぞれのカテゴリーで分析できる実習生の記録である。そして、「3. 授業分析」の項でまとめられた意見のような観点で、2週間の成長の過程を、反省点・向上するためのポイントとともに実習生に提示できる、授業分析されたビデオ教材であれば、実習生が「自分もこのような観点で準備をすると2週間であの様に成長できる、あるいはさらに良い実習体験ができるかもしれない」という励みになろう。そのためには経済的にも時間的にも努力を惜しまず、多くの実習生の記録を撮り続ける必要がある。

教師教育が教育工学と結びつき、教師の教授行動をより具体的に客観的に分析・解明、理論的にかつ実践的に教師の諸能力の向上を図ろうとの動きが1970年頃からアメリカを中心に盛んになった。いわゆるプロトコルアプローチ（Protocol Approach）もその一環である。ビデオ教材そのもの（Protocol Materials）も教授行動の分析研究に役立つが、授業の記録としてそのまま学生に見せたのでは、漠然とその雰囲気が分かったというだけで、効果はあまり期待できない。先のような分析の元に編集されて初めて教授行動をより客観的に建設的に眺められる教師教育教材となりうる。さらにその時に、ビデオ教材では説明しきれないものもあり、記述された形としてそのテープが起こされ、実習生及び生徒たちの発言・行動がカテゴリー化されたそのビデオ教材の解説書が作成されると非常に効果的である。板書や、教師と生徒の特別な活動はビデオテープからスチル写真に起こし、連続写真として解説書で見せることにより、ビデオ教材を補足することができる。国際基督教大学教職課程において作成したビデオ教材の

解説書には、初めに述べたように指導案や板書、実習生の反省と共に、実習生・生徒の発言のプロトコールを付けてあるが、好評であり、今後スチル写真も含めより良いものになるように工夫をしていきたいと思っている。